



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

CF0 16157 VS / Rda
Appl. No. 10/059,146

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 2月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-030371

[ST.10/C]:

[JP2001-030371]

出 願 人

Applicant(s):

キヤノン株式会社

RECEIVED

APR 15 2002

Technology Center 2600

RECEIVED

APR 09 2002

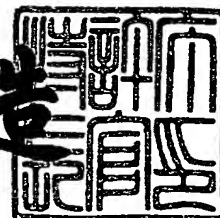
Technology Center 2100

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2002年 3月 1日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3012113

03500.016157



2184 #2
PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)

TOMOYA SATO)

Application No.: 10/059,146)

Filed: January 31, 2002)

For: IMAGE PROCESSING)
APPARATUS AND CONTROL)
METHOD THEREOF)

Examiner: Not Yet Assigned

Group Art Unit: 2184

April 5, 2002

RECEIVED

APR 15 2002

Technology Center 2600

RECEIVED

APR 09 2002

Technology Center 2100

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

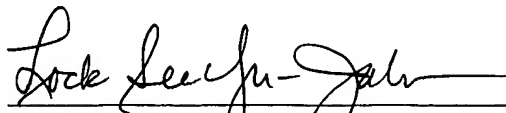
Sir:

In support of Applicant's claim for priority under 35 U.S.C. § 119, enclosed is
a certified copy of the following Japanese application:

2001-030371, filed February 7, 2001.

Applicant's undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,



Attorney for Applicant
LOCK SEE YU-JAHNES
Registration No. 38,667

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

NY_MAIN 250845 v 1

【書類名】 特許願

【整理番号】 4309007

【提出日】 平成13年 2月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 画像処理装置、画像処理方法およびプログラム

【請求項の数】 5

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 佐藤 智也

【特許出願人】

 【識別番号】 000001007

 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100087446

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 川久保 新一

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 009634

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9704186

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像処理装置、画像処理方法およびプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ネットワークと接続するネットワーク接続手段と、上記ネットワーク上のクライアントからの要求を処理するサーバ手段と、上記サーバ手段が処理する上記クライアントからの要求に応じて、画像の出力、送信、各種設定値の参照／変更等の操作のうちで、少なくとも 1 つを制御する制御手段を具備し、ネットワーク上のクライアントから操作することができる画像処理装置において、

同一クライアントから以前にアクセスがあったか否かを判断する前回アクセス判断手段と；

上記前回アクセス判断手段が、同一クライアントから以前にアクセスがあったと判断すると、以前に受けたアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定する処理内容決定手段と；

上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる操作画面変化手段と；

を有することを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】 請求項 1 において、

上記クライアントからアクセスがあったときに、次回以降の操作要求に備えて、今回の操作内容を記憶する記憶手段を有することを特徴とする画像処理装置。

【請求項 3】 ネットワークと接続するネットワーク接続段階と、上記ネットワーク上のクライアントからの要求を処理するサーバ段階と、上記サーバ段階で処理する上記クライアントからの要求に応じて、画像の出力、送信、各種設定値の参照／変更等の操作のうちで、少なくとも 1 つを制御する制御段階を具備し、ネットワーク上のクライアントから操作することができる画像処理方法において、

同一クライアントから以前にアクセスがあったか否かを判断する前回アクセス

判断段階と；

上記前回アクセス判断段階で、同一クライアントから以前にアクセスがあったと判断すると、以前に受けたアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定する処理内容決定段階と；

上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる操作画面変化段階と；

を有することを特徴とする画像処理方法。

【請求項4】 請求項3において、

上記クライアントからアクセスがあったときに、次回以降の操作要求に備えて、今回の操作内容を記憶する記憶段階を有することを特徴とする画像処理方法。

【請求項5】 ネットワークと接続するネットワーク接続手順と；

上記ネットワーク上のクライアントからの要求を処理するサーバ手順と；

上記サーバ手順で処理する上記クライアントからの要求に応じて、画像の出力、送信、各種設定値の参照／変更等の操作のうちで、少なくとも1つを制御する制御手順と；

同一クライアントから以前にアクセスがあったか否かを判断する前回アクセス判断手順と；

上記前回アクセス判断手順で、同一クライアントから以前にアクセスがあったと判断すると、以前に受けたアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定する処理内容決定手順と；

上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる操作画面変化手順と；

を画像処理装置に実行させるプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワーク上のクライアントが操作することができる画像処理装置、画像処理方法およびプログラムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

今日、画像処理装置に付属している操作パネルを用いて操作する以外に、ネットワークを介して接続されているコンピュータからも操作可能である画像処理装置が知られている。

【0003】

コンピュータから画像処理装置を制御する場合、通常、その画像処理装置専用のドライバを経由し、所望の動作をさせる。したがって、そのドライバが組み込まれたコンピュータでなければ、上記画像処理装置を制御することができない。

【0004】

これに対して、最近は、Webサーバの機能を有する画像処理装置が出現している。このような画像処理装置では、専用の特別なドライバを必要とせずに、一般のWebブラウザを用いて制御することができる。

【0005】

また、最近の画像処理装置では、その画像処理装置内に存在しているハードディスク等の記憶装置に、専用の領域（ボックス）を持ち、その領域に画像を記憶することができる装置が知られている。このような装置では、複数のボックスを用意し、利便性を高めている。ボックスに対する操作を、Webクライアントから行う場合、ブラウザの画面に、まず、ボックスの一覧が表示され、ユーザがその中の1つを選択するか、ボックスの番号を入力装置から入力することによって、所望のボックスの内容を表示するものがほとんどである。

【0006】

また、送信機能をもつ画像処理装置では、送信先がまとめられているアドレス帳をもつ機種が多く存在している。アドレス帳に対する操作を、Webクライアントから行う場合も、ボックスの上記場合と同様に、ブラウザの画面に、まず、アドレス帳の一覧を表示し、ユーザがその中から1つを選択するか、アドレス帳の番号を入力装置から入力することによって、所望のアドレス帳の内容を表示するものがほとんどである。

【 0 0 0 7 】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、一般的に、各ユーザが送信する度に、ボックスやアドレス帳の一覧から所望の送信先を選択する操作や、上記一覧に番号を入力する操作は、煩雑であるという問題がある。

【 0 0 0 8 】

また、各ユーザが送信する場合の送信先は、ボックスやアドレス帳の内容のうちの一部であり、また、ほとんど特定され（多くの場合 1 人であり）、しかも、そのクライアントが実行する操作は、特定の処理であることが多い。したがって、クライアントごとに操作画面等が変化すればより便利である。

【 0 0 0 9 】

本発明は、ネットワークを介して、クライアントが画像処理装置にアクセスする際、各ユーザが使用する可能性が高い画面を優先的に表示することができ、ユーザの操作性が高い画像処理装置、画像処理方法およびプログラムを提供することを目的とするものである。

【 0 0 1 0 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、同一クライアントから以前にアクセスがあれば、そのアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定し、また、上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる画像処理装置である。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態および実施例】

図 1 は、本発明の第 1 の実施例である画像処理装置 1 0 1 を含むシステムの構成を示す図である。

【 0 0 1 2 】

画像処理装置101は、ネットワーク100を介して、ウェブクライアント109、110に接続されている。

【0013】

画像処理装置101は、ネットワーク接続部102と、ウェブサーバ部103と、制御部104と、記憶部105と、プリント出力部106と、送信部107と、前回アクセス判断部108とを有する。なお、プリント出力部106と送信部107とは、少なくとも1つを有していれば足りる。

【0014】

ネットワーク接続部102は、ネットワーク100との間でデータの送受信を行う。ウェブサーバ部103は、HTTPによる通信が可能なサーバであり、ウェブクライアント109、110からの要求に応じて動作する。制御部104は、ウェブサーバ部103からの要求に基づいて、記憶部105に記憶されているデータを、プリント出力部106にプリント出力させたり、送信部107に送信させたりする制御を行う。

【0015】

前回アクセス判断部108は、ウェブサーバ部103が受け取った要求が、以前にアクセスしたブラウザからの要求であるか否かを判断し、以前にアクセスしたブラウザからの要求であれば、以前のアクセス内容をウェブサーバ部103に伝え、ウェブサーバ部103の動作を変化させる。

【0016】

図2は、画像処理装置101におけるコントローラユニット2000の構成を示すブロック図である。

【0017】

コントローラユニット2000は、画像処理装置101から、操作部2012、スキャナ2070、プリンタ2095を除いたものであり、コピー機能と、プリント機能と、ファクシミリ機能とを有するデジタル複写機である。

【0018】

また、コントローラユニット2000は、画像入力デバイスであるスキャナ2070と、画像出力デバイスであるプリンタ2095とが接続され、LAN20

11と、公衆回線(WAN)2051とが接続され、コピー機能と、LAN2011とを介して、外部から供給されるデータをプリント出力するプリンタ機能と、公衆回線(WAN)2051を介したファクシミリ機能を含む通信機能とを有する複合装置であり、この複合装置は、装置全体の制御を行うとともに、画像情報やデバイス情報の入出力に関する制御を行う。

【0019】

コントローラユニット2000は、ROM2003に格納されているブートプログラムに基づいてシステムを起動し、このシステム上で、HDD(ハードディスク装置)2004に格納されている各種制御プログラムを読み出し、RAM2002をワークエリアとして所定の処理を実行するCPU2001を有する。HDD2004には、上記各種プログラムと画像データとが格納されている。

【0020】

CPU2001には、システムバス2007を介して、RAM2002と、ROM2003と、HDD2004と、操作部I/F(操作部インタフェース)2006と、LANI/F(LANインタフェース)2010と、モデム2050と、イメージバスI/F(イメージバスインタフェース)2005とが接続されている。

【0021】

操作部I/F2006は、操作部2012との間におけるインタフェースであり、操作部2012に表示する画像データを、操作部2012へ転送し、また、操作部2012で行なわれた操作入力によって発生した信号を、CPU2001へ転送する。

【0022】

操作部2012は、画像処理に関する各機能における現在の設定状態、各機能に関する設定情報を入力する情報入力画面等を表示する表示部と、各機能に対する設定情報を入力するキー等を含む入力部とを有する。なお、この操作部2012の詳細な構成については、後述する。

【0023】

LANI/F2010は、LAN2011に接続され、LAN2011を介し

た情報の入出力を行う。モデム2050は、公衆回線(WAN)2051に接続され、公衆回線2051を介して、情報の入出力を行う。イメージバスI/F2005は、画像バス2008と、システムバス2007とを接続し、データ構造を変換するバスブリッジによって構成されている。画像バス2008は、画像データを高速で転送可能なPCIバスまたはIEEE1394規格に従うバスによって構成されている。

【0024】

画像バス2008には、RIP(ラスタイメージプロセッサ)2060と、デバイスI/F(デバイスインタフェース)2020と、スキャナ画像処理部2080と、プリンタ画像処理部2090と、画像回転部2030と、画像圧縮部2040とが接続されている。

【0025】

RIP2060は、PDLコードをビットマップイメージに展開する。デバイスI/F2020は、画像入出力デバイスであるスキャナ2070やプリンタ2095とコントローラユニット2000とを接続し、画像データの同期系/非同期系の変換を行う。ここでは、デバイスI/F2020とスキャナ2070とが、ケーブル2071を介して接続され、デバイスI/F2020とプリンタ2095とが、ケーブル2096を介して接続されている。

【0026】

スキャナ画像処理部2080は、入力画像データについて、補正、加工、編集を行う。プリンタ画像処理部2090は、プリント出力画像データについて、プリンタの補正、解像度変換等を行う。画像回転部2030は、画像データの回転処理を行う。画像圧縮部2040は、多値画像データについて、JPEGの圧縮伸張処理を行い、二値画像データについて、JBIG、MMR、MHの圧縮伸張処理を行う。

【0027】

上記のように、コントローラユニット2000のCPU2001は、各制御プログラムに基づいて、システムバス2007に接続される各種デバイスとのアクセスを総括的に制御し、また、デバイスI/F2020を介して、スキャナ20

70から画像情報を読み込み、この読み込んだ画像情報について、所定の処理を施した後に、デバイスI/F2020を介して、該画像情報をプリンタ2095に出力する等の制御を行う。

【0028】

次に、スキャナ2070とプリンタ2095とが一体的に構成されている画像入出力デバイスについて説明する。

【0029】

図3は、スキャナ2070とプリンタ2095とが一体的に構成されている画像入出力デバイスの外観図である。

【0030】

画像入力デバイスであるスキャナ2070と、画像出力デバイスであるプリンタ2095とは、図3に示すように、画像入出力デバイスとして一体的に構成され、スキャナ2070には、操作部2012が設けられている。

【0031】

スキャナ2070は、原稿上の画像を照明し、CCDラインセンサ（図示せず）を走査することによって、原稿上の画像を読み取り、この読み取った画像を、光電変換によってラスタイメージデータに変換する。原稿は、原稿フィーダ2072のトレイ2073にセットされ、操作部2012から読み取り起動指示を、ユーザが出すことによって、コントローラユニット2000のCPU2001がスキャナ2070に、原稿の読み取り動作を行うように指示する。このCPU2001の指示によって、原稿フィーダ2072から原稿が1枚ずつフィードされ、フィードされた原稿毎に、原稿画像の読み取り動作が行われる。

【0032】

プリンタ2095は、ケーブル2096を介して、デバイスI/F2020から転送されたラスタイメージデータを、用紙上の画像に変換する画像処理を行う装置であり、この画像処理方式としては、感光体ドラムや感光体ベルト等の静電潜像担持体を用い、この静電潜像担持体上に、ラスタイメージデータに基づいて、レーザ光を走査することによって、静電潜像を形成する電子写真方式が用いられている。

【0033】

なお、上記実施例では、電子写真方式を用いているが、この代わりに、微少ノズルアレイからインクを吐出し、用紙上に直接画像を印字するインクジェット方式等の他の画像処理方式を用いるようにしてもよい。

【0034】

プリント動作は、コントローラユニット2000のCPU2001からの指示によって起動される。プリンタ2095は、異なる用紙サイズまたは異なる用紙向きを選択できるように、複数の給紙段を有し、各給紙段毎に、対応するサイズ of 用紙を対応する向きに搭載する用紙カセット2101、2102、2103、2104が、それぞれ装着されている。また、画像が形成された用紙は、排紙トレイ2111上に排紙される。

【0035】

次に、上記実施例における操作部2012の構成について説明する。

【0036】

図4は、上記実施例における操作部2012の外観構成を示す図である。

【0037】

操作部2012は、図4に示すように、画面上にタッチパネルシートが貼り付けられている液晶表示部（以下、LCDという）2013と、複数のハードキーとを有する。LCD2013は、システムの操作画面とソフトキーとを表示し、表示されているソフトキーが押されると、操作部I/F2006を介して、その位置情報が、コントローラユニット2000のCPU2001に出力される。ハードキーとして、スタートキー2014、ストップキー2015、IDキー2016、リセットキー2017が設けられている。

【0038】

スタートキー2014は、原稿画像の読み取り動作の開始を指示するキーであり、このキー2014の中央部には、緑と赤との2色LED2018が装着されている。2色LED2018の赤色点灯は、スタートキー2014の押下を受け付けないことを示し、緑色点灯は、スタートキー2014の押下を受け付けることを示す。ストップキー2015は、稼動中の動作を止めるキーである。IDキ

ー2016は、使用者のユーザIDを入力するときに用いられるキーであり、リセットキー2017は、操作部2012からの設定を初期化するときに用いるキーである。

【0039】

次に、ボックス機能について説明する。

【0040】

HDD2004内には、画像データを一時的に格納する領域（ボックス）が用意されている。上記ボックスには、ユーザがスキャンした文書や、コンピュータから送られた画像を保存するユーザボックスと、受信したFAX文書等を保存するシステムボックスとがある。各ユーザボックスには、番号が付与され、それぞれを互いに識別することができる。

【0041】

また、図示しない画面において、ボックス名称、暗証番号、保存したデータを、ボックスから自動的に消去するまでの時間を、ユーザボックスに設定することができる。ユーザは、スキャンした画像や、コンピュータから送った画像を、ボックスに保存することを指定することができる。保存された文書は、ユーザの指示によって、FAXや電子メールで送信したり、他のボックスに移動したり、プリンタ出力することができる。

【0042】

次に、上記実施例におけるリモートUI機能について、説明する。

【0043】

「リモートUI機能」は、ネットワーク上のクライアントが、画像処理装置101にアクセスする機能である。

【0044】

画像処理装置101に、ネットワーク上のクライアントからアクセスするために、ユーザは、URL (Uniform Resource Locator) を直接ウェブブラウザに入力するか、URLが埋め込まれたリンクを選択する。ウェブブラウザは、ネットワークを介して、所望のURLを指定するHTTPコマンドを送信する。装置のウェブサーバは、このHTTPコマンドを受け取り、

これを解析し、それに応じた動作を行う。

【0045】

Webブラウザからの要求が、画像処理装置101に対する動作要求である場合、対応するCGI (Common Gateway Interface) プログラムの処理が行われ、処理手段によって、装置の情報の取得・設定や、プリント出力等の動作が実行される。ユーザがフォームに入力する等して、Webブラウザから指定した値は、WebサーバからCGIプログラムに渡され、制御パラメータ等として利用される。

【0046】

図5は、ウェブブラウザに表示されるリモートUIのトップページを示す図である。

【0047】

リモートUIのトップページは、画像処理装置101のURLをウェブブラウザに入力したときに、デフォルトで表示されるページである。図5に示すように、画面は、インデックス領域301とメイン領域302との2つのフレームによって構成されている。インデックス領域には、主なサイトマップが表示され、マップ上のボタンを押すと、対応する画面がメイン領域に表示される。

【0048】

上記実施例においては、以前に同じクライアントから要求があったか否かを判断する判断手段のために、クッキー (Cookie) 機能を用いる。

【0049】

上記「クッキー機能」は、HTTPでクライアントと通信するWebサーバが、クライアントに対して情報を保持するように指示する機能である。保持される情報を「クッキー」と呼ぶ。

【0050】

クッキーを設定するためには、サーバは、クライアントに対する応答に「Set-Cookie: name=value」という書式で書かれたSet-Cookieヘッダを付加する。クライアントが、この情報を受け取ると、「name=value」という内容を、それが有効となるURLの範囲とともに記憶す

る。

【0051】

以後、同じ場所を参照する場合、そのクライアントは、「Cookie: name=value」というヘッダを付加し、HTTP要求を送信する。このヘッダが付加された要求を受け取ると、前回アクセス判断部108は、このヘッダに書かれている内容を参照し、ウェブサーバ部103に対して適切な処理を行うように指示する。

【0052】

上記実施例では、クライアントがBOX機能にアクセスした場合に、そのBOX番号がクッキーとして設定される。

【0053】

次に、ユーザがボックスボタン303を押したときの動作について説明する。

【0054】

図8は、上記実施例において、ユーザがボックスボタン303を押したときの動作を示すフローチャートである。

【0055】

図6は、リモートUI（ネットワーク上のクライアントが、画像処理装置101に行うアクセス）におけるボックス一覧表示画面を示す図である。

【0056】

ステップS1では、要求の解釈を行う。ステップS2では、BOX番号を指定するクッキーが含まれているか否かを判定し、BOX番号を指定するクッキーが含まれていなければ、このクライアントがBOXの操作をするのは初めてであるので、ボックスの一覧を示す画面（図6に示す画面）を表示するファイルを送信する（ステップS3）。

【0057】

図7は、上記実施例において、リモートUIにおけるボックス内容表示画面を示す図である。

【0058】

ユーザが、この画面から1つのボックスを選択する（ステップS4）と、その

B O X の内容を示す図 7 の画面へ移行する（ステップ S 5）。

【 0 0 5 9 】

ステップ S 2 では、B O X 番号を指定するクッキーが含まれていた場合、図 6 を経由せずに、図 7 の画面へ移行する。

【 0 0 6 0 】

ステップ S 5 では、図 7 に示す画面のファイルを送信する際には、今回アクセスした B O X 番号を記憶するように、S e t - C o o k i e ヘッダを付けて送信する。

【 0 0 6 1 】

これによって、このクライアントから次回 B O X 情報要求があった場合には、B O X 番号指定クッキーと一緒に送られてくる。したがって、次のアクセスでは、ステップ S 2 において、クッキー有りと判断されるので、B O X 一覧を表示せずに、今回参照した B O X の内容がすぐに表示される。

【 0 0 6 2 】

したがって、上記第 1 の実施例では、ネットワークを介して、クライアントが画像処理装置にアクセスする際、前回アクセスした内容に応じて、クライアントに表示される内容が変化するので、各ユーザが使用する可能性が高い画面を優先的に表示することができ、ユーザの操作性が高い。

【 0 0 6 3 】

次に、本発明の第 2 の実施例について説明する。

【 0 0 6 4 】

本発明の第 2 の実施例である画像処理装置は、クライアントを識別する I D をクッキーとする実施例である。

【 0 0 6 5 】

図 9 は、第 2 の実施例において使用するクライアント I D 管理テーブル 7 0 0 を示す図である。

【 0 0 6 6 】

第 2 の実施例である画像処理装置は、H D D 2 0 0 4 等の不揮発性の記憶装置に、クライアント I D 管理テーブル 7 0 0 を持つ装置である。

【0067】

クライアントID管理テーブル700は、欄701、702、703を有し、欄701には、クライアントを一意に示すID番号が記憶されている。欄702には、たとえばそのクライアントから最近アクセスされたBOX番号が記憶され、欄703には、最近アクセスされたアドレス帳番号が記憶されている。クライアントがアクセスすると、クライアントID管理テーブル700が参照・変更される。

【0068】

次に、上記第2の実施例において、クライアントがアクセスした場合における動作について説明する。

【0069】

図10は、第2の実施例において、クライアントがアクセスした場合における動作を示すフローチャートである。

【0070】

ステップS11では、クライアントからの要求の解釈を行う。ステップS12では、クライアントIDを示すクッキーが含まれているか否かを判定し、クライアントIDを示すクッキーが含まれていなければ、サーバは、一意的なクライアント識別IDを生成し、クッキーとして設定する（ステップS13）。一意的なIDを生成するには、たとえば、ID生成処理をしたときの時刻を用いればよい。そして、生成したクライアントIDを指定するSet-Cookieヘッダとともに、応答を送信する（ステップS14）。次回、このクライアントから要求があった場合には、クライアントID指定クッキーと一緒に送られてくる。

【0071】

ステップS12では、クライアント識別IDが含まれていれば、クライアントID管理テーブル700から対応するクライアントIDを検索する（ステップS15）。クライアントID管理テーブル700には、そのクライアントが以前のアクセスで操作したBOX番号、アドレス帳番号が記憶されているので、その情報に基づいて処理を行い、応答を送信する（ステップS16）。

【0072】

欄 7 0 2、7 0 3 が空欄になっている場合には、以前そのクライアントから B O X やアドレス帳に関する操作が行われなかったことを示している。この場合、そのクライアントは、初めてアクセスするという情報に基づいて、処理が行われる。

【 0 0 7 3 】

ステップ S 1 7 において、今回のアクセスの内容に応じて、クライアント I D 管理テーブル 7 0 0 を更新する。

【 0 0 7 4 】

なお、上記各実施例は、前回のアクセスした B O X、アドレス帳を記憶するが、その他の各種情報を記憶し、その内容に応じて応答を変化させるようにしてもよい。

【 0 0 7 5 】

また、上記実施例をプログラムの発明として把握することができる。つまり、上記実施例は、ネットワークと接続するネットワーク接続手順と、上記ネットワーク上のクライアントからの要求を処理するサーバ手順と、上記サーバ手順で処理する上記クライアントからの要求に応じて、画像の出力、送信、各種設定値の参照／変更等の操作のうちで、少なくとも 1 つを制御する制御手順と、同一クライアントから以前にアクセスがあったか否かを判断する前回アクセス判断手順と、上記前回アクセス判断手順で、同一クライアントから以前にアクセスがあったと判断すると、以前に受けたアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定する処理内容決定手順と、上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる操作画面変化手順とを画像処理装置に実行させるプログラムの例である。

【 0 0 7 6 】

【発明の効果】

本発明によれば、ネットワークを介して、クライアントが画像処理装置にアクセスする際、前回アクセスした内容に応じて、クライアントに表示される内容が変化するので、各ユーザが使用する可能性が高い画面を優先的に表示することが

でき、ユーザの操作性が高いという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施例である画像処理装置 1 0 1 を含むシステムの構成を示す図である。

【図 2】

画像処理装置 1 0 1 におけるコントローラユニット 2 0 0 0 の構成を示すブロック図である。

【図 3】

スキャナ 2 0 7 0 とプリンタ 2 0 9 5 とが一体的に構成されている画像入出力デバイスの外観図である。

【図 4】

上記実施例における操作部 2 0 1 2 の外観構成を示す図である。

【図 5】

ウェブブラウザに表示されるリモート UI のトップページを示す図である。

【図 6】

リモート UI（ネットワーク上のクライアントが、画像処理装置 1 0 1 に行うアクセス）におけるボックス一覧表示画面を示す図である。

【図 7】

上記実施例において、リモート UI におけるボックス内容表示画面を示す図である。

【図 8】

上記実施例において、ユーザがボックスボタン 3 0 3 を押したときの動作を示すフローチャートである。

【図 9】

第 2 の実施例において使用するクライアント ID 管理テーブル 7 0 0 を示す図である。

【図 1 0】

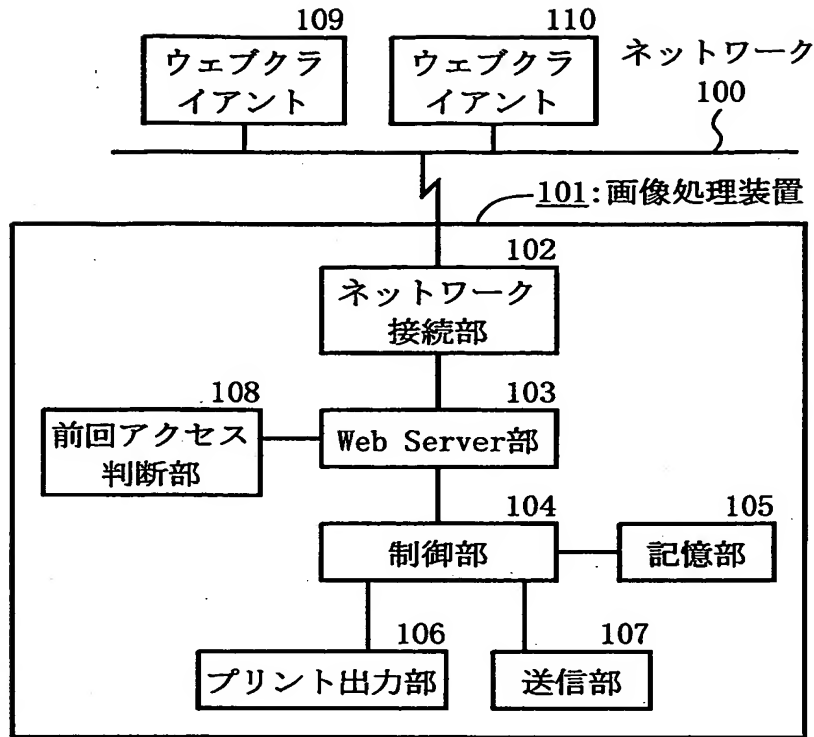
第 2 の実施例において、クライアントがアクセスした場合における動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

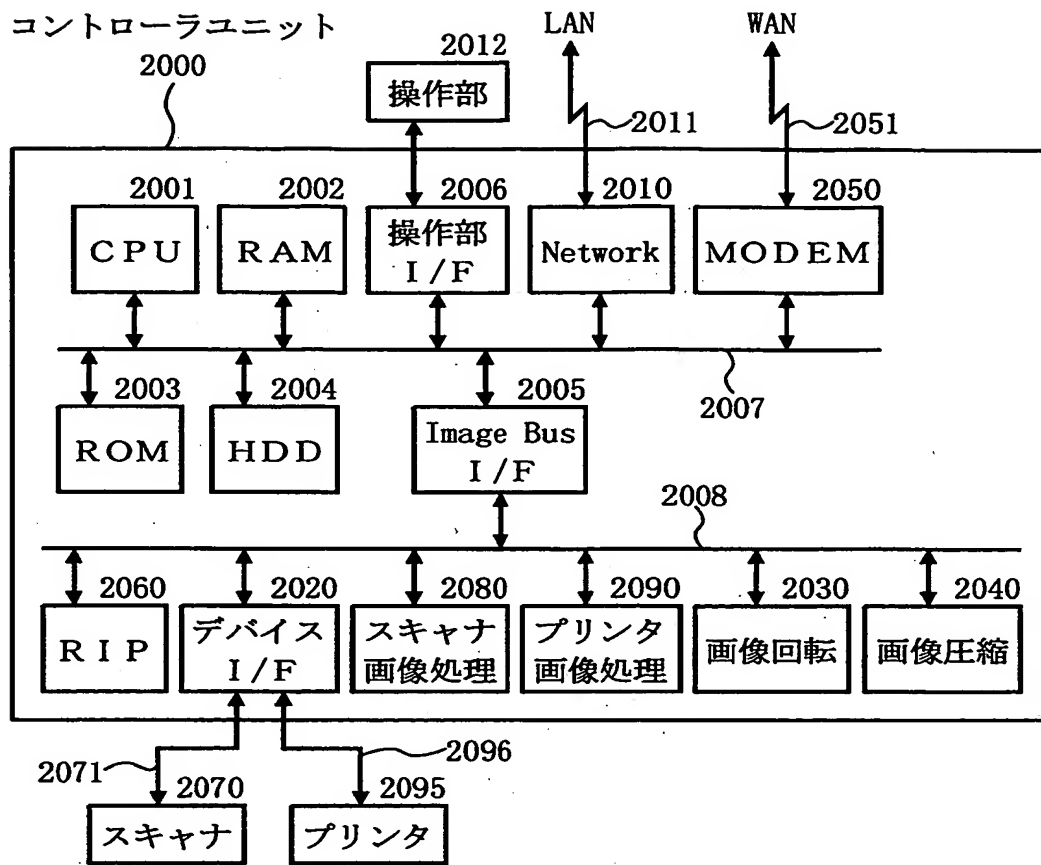
- 1 0 0 … ネットワーク、
- 1 0 1 … 画像処理装置、
- 1 0 2 … ネットワーク接続部、
- 1 0 3 … ウェブサーバ部、
- 1 0 4 … 制御部、
- 1 0 5 … 記憶部、
- 1 0 8 … 前回アクセス判断部、
- 1 0 9、1 1 0 … ウェブクライアント。

【書類名】 図面

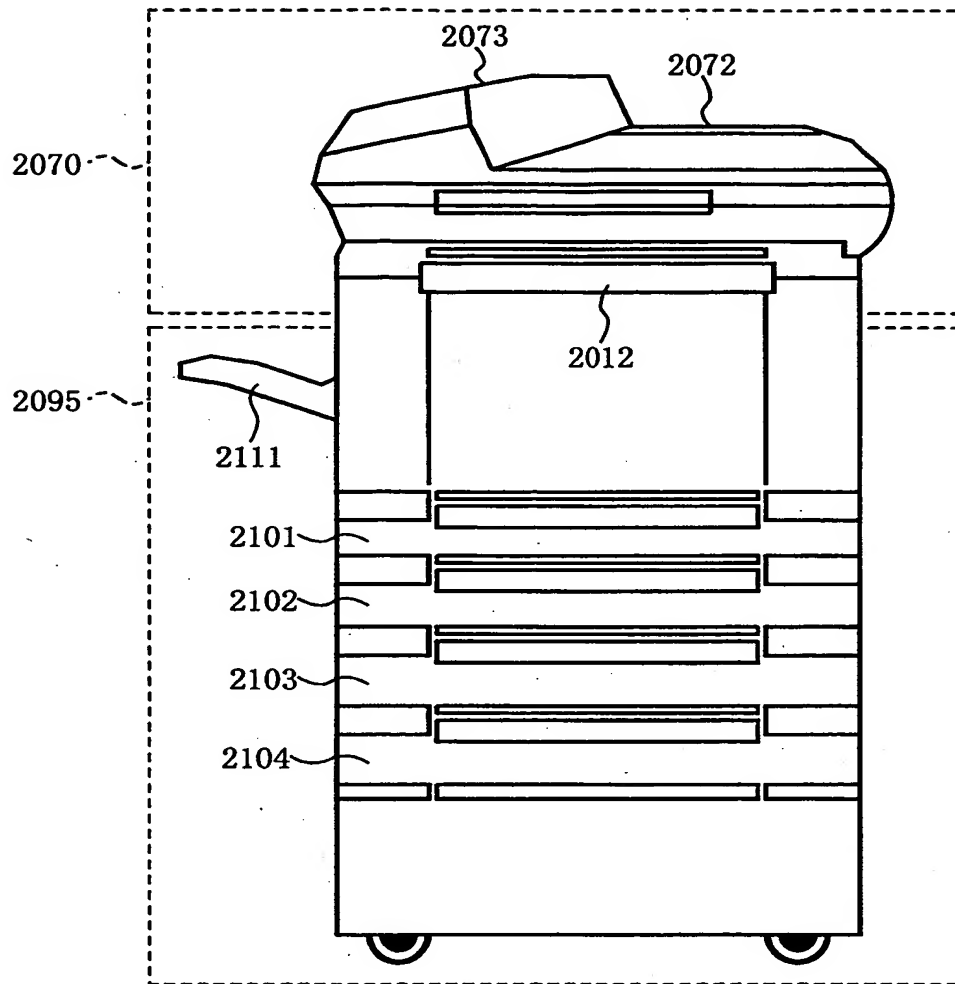
【図 1】



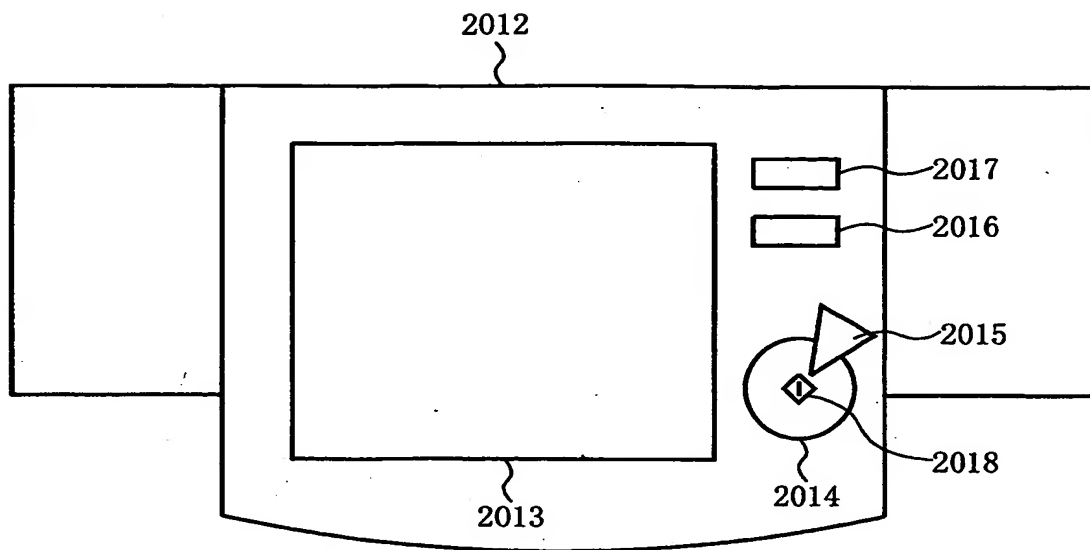
【図 2】



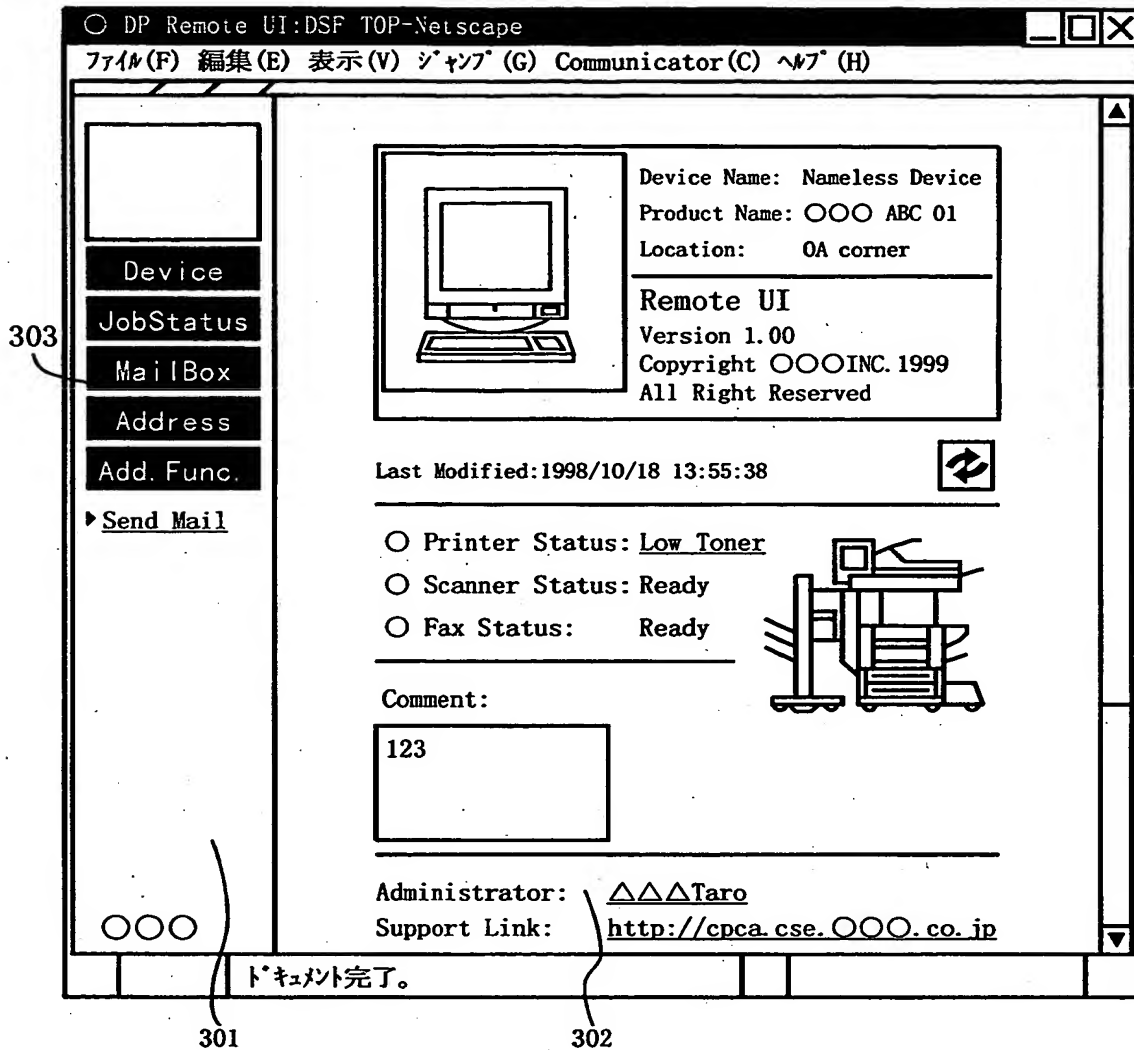
【図 3】



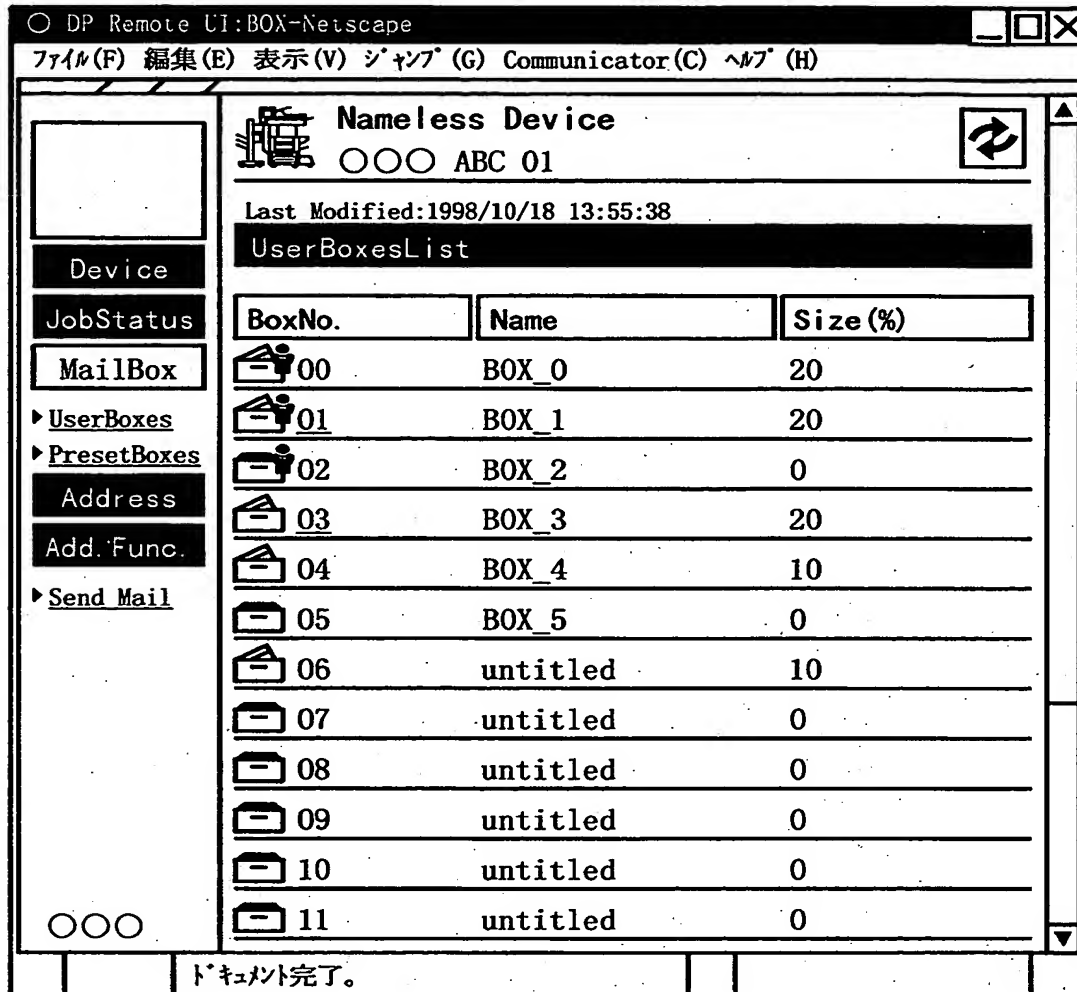
【図 4】



【図 5】

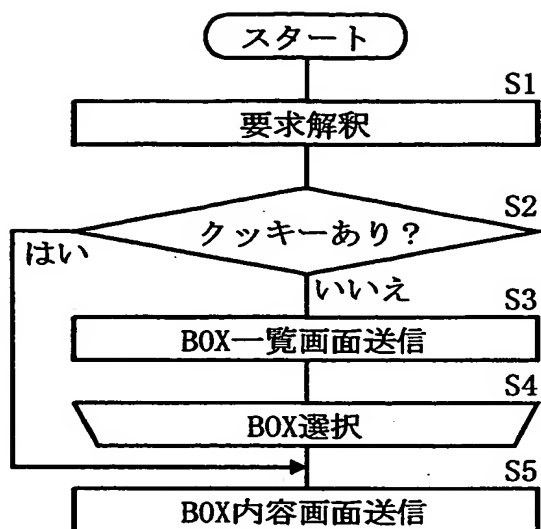


【図6】



7

【図 8】

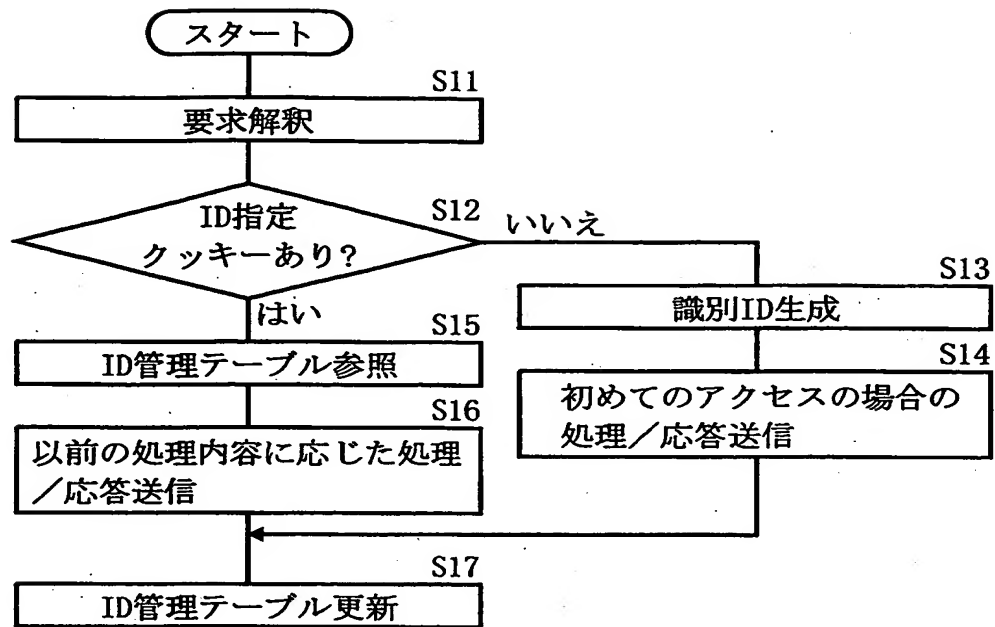


【図 9】

700: クライアントID管理テーブル

701 クライアント識別ID	702 BOX番号	703 アドレス帳番号
20000810102345	0	4
20000811122333	5	5
19990506165505	6	—

【図 1 0】



【書類名】

要約書

【要約】

【課題】 ネットワークを介して、クライアントが画像処理装置にアクセスする際、各ユーザが使用する可能性が高い画面を優先的に表示することができ、ユーザの操作性が高い画像処理装置および画像処理方法を提供することを目的とするものである。

【解決手段】 同一クライアントから以前にアクセスがあれば、そのアクセス内容に応じて、今回の処理内容を決定し、また、上記クライアントに表示する操作画面を、上記クライアントからの前回のアクセス内容に応じて変化させる画像処理装置である。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名	キヤノン株式会社